

## 特定漁港漁場整備事業計画書

## 1 目的

## 目 的

**(1) 地域の特徴**

本地区は、薩摩半島の南岸中央部の枕崎市に位置し、東に南九州市知覧町、北に南九州市川辺町、西に南さつま市に接し、その形状はほぼ五角形である。平均気温は約18度、年間降水量は平均2,000ミリと多雨で、温暖な地域となっている。

枕崎市の人口は、平成27年10月現在、22,059人（住民基本台帳）で高齢化率は約4割となっている。これまでの国勢調査と比較しても、人口は減少し、高齢化率は増加傾向にある。産業別の就業者をみると、第一次産業は1,413人（平成22年国勢調査で以下同じ）で全体の13.0%、第二次産業は2,677人（24.6%）、第三次産業は6,799人（62.4%）となっている。この傾向は、地方都市の比率と類似しているが、その内訳をみると漁業就業者や水産加工業就業者が多い特徴がある。その他、お茶や電照菊、焼酎などが生産されている。

また、現在枕崎市と鹿児島市等へのアクセス向上を図り、南薩地域の活力ある地域づくりへの寄与を目的とした総延長約50kmの地域高規格道路が計画され、平成29年3月に枕崎市までの全区間が供用開始されたところである。この全線供用開始により、枕崎漁港からの水産物の流通能力が強化されるものと期待されている。

**(2) 水産業の沿革と現状**

本地区の沖合は、黒潮の流れる東シナ海的好漁場に恵まれ、古くからカツオの一本釣りをはじめ、アジ・サバ類のまき網漁業が行われ、岩礁の発達した沿岸部では、タイ類の一本釣り、定置網漁業等が行われ漁業の町として栄えてきた。また、全国鯉節生産量の約4割を占め日本一の生産量を誇っており、漁港背後には多くの鯉節加工場が立地するなど、地域の基幹産業として重要な役割を果たしている。

本漁港における陸揚量は、平成11年の開港指定以降、それまで8万トン前後で推移していたものが、海外まき網船等の陸揚げが増加し、近年は12万トン前後で推移している。内訳をみると、まき網漁業が全体の約8割（平成26年港勢調査）で、カツオ類は約5割を占めている。出荷先別配分数量（陸揚げ後の仕向先）においては、冷凍・冷蔵向けの出荷が約5割となっており、ほぼ全てが鯉節の原料となる冷凍カツオである。

また、(財)南薩地域地場産業振興センター、(株)枕崎市かつお公社、(株)枕崎お魚センターを中心に、カツオなどの地場産品の直販を推進しており、その他にも枕崎ぶえん祭りや枕崎港まつりなど枕崎漁港周辺で大きなイベントが開催されている。

**(3) 漁港漁場整備の沿革と役割**

漁港整備の始まりとしては、安永4年（1775年）に枕崎の石工・神園孫兵衛がえびす鼻から北西に長さ60間（約120m）幅約20mの「ガンギ（防波堤）」を築いたのが始まりとされている。この防波堤は、大正初年に至るまでの約140年間、度重なる風雨に耐えてきたが、漁船の難破もしばしばあったと言われている。漁業の発展に伴い、漁船の動力化が進み、カツオ漁業が活気を呈し、島堤などの整備も進められた。昭和10年代に入ると、漁船の大型化も進み、太平洋戦争まで発展を続けた。

戦後、漁船も無く施設も破壊されていたが、めざましい立ち直りにより、昭和25年には戦前の半分以上を超える漁獲高となっていた。その中、昭和24年から第1次漁港修築事業に着手し、昭和26年9月7日に、枕崎港は漁港法に基づき全国的な漁港として第3種漁港の指定を行い、昭和44年3月3日に、全国

規模の重要漁港として、特定第3種漁港に位置づけた。

昭和48年度の第5次漁港修築事業から、本格的な外港建設が始まり、平成11年7月には、漁港単独として日本で初めての開港の指定を受け、輸出入もできる大規模な漁港として発展してきた。平成12年3月には、海外まき網船などの大型船舶が接岸できる－8m岸壁と荷さばき所用地の埋立が完了し、平成14年度までに漁港の基本施設である外郭施設・係留施設・水域施設の整備や各種機能施設の整備が進められて現在の港形ができあがった。

また、近年の消費者の食の安全・安心に対するニーズの高まりに対応し、高度衛生管理型荷さばき所の整備を進め、平成28年3月に完成したところである。

#### (4) 当該事業計画の目的

##### ①水産業の競争力強化と輸出促進

消費者の安全・安心に対するニーズの高まりがある中で、高度衛生管理体制が構築されているのは、平成28年3月に完成した冷凍カツオを取扱う高度衛生管理型荷さばき所1棟とその前面の－9m岸壁のみであり、漁港全体で見ると高度衛生管理体制が構築されているのは一部のみとなっている。

このため、平成29年4月28日に策定した枕崎地区高度衛生管理計画に基づき、冷凍カツオや青物（サバ、アジ、イワシ等）を取り扱う外港地区、沿岸物（キビナゴ、イカ、マダイ等）を取り扱う内港地区において、岸壁の屋根や既設荷さばき所を高度衛生管理型へ改良するなど、枕崎漁港全体の高度衛生管理体制への対応を推進する。

また、枕崎漁港は、古くからまき網漁業の拠点として重要な基地港である。周辺海域においては、定置網漁業も行っており、定期的な漁具の補修が必要である。しかし、漁具補修のための用地については未舗装であることから、砂や砂利が漁具に混入するなど作業の効率が悪く漁業活動の支障となっている。

加えて、本漁港の陸揚量の約5割を占める冷凍カツオは主に外港部の－9m岸壁で陸揚げが行われているが、近年の海外まき網船の大型化に伴い、大型船の陸揚げや準備・休けいに必要な－9m岸壁が不足がしている。

このため、用地舗装や漁船の大型化に対応した岸壁整備による漁業活動の効率化及び衛生管理対策を行い、水産業の競争力強化を図る。

## 2 施行に係る区域及び工事に関する事項

### (1) 区域に関する事項

#### イ 区域名

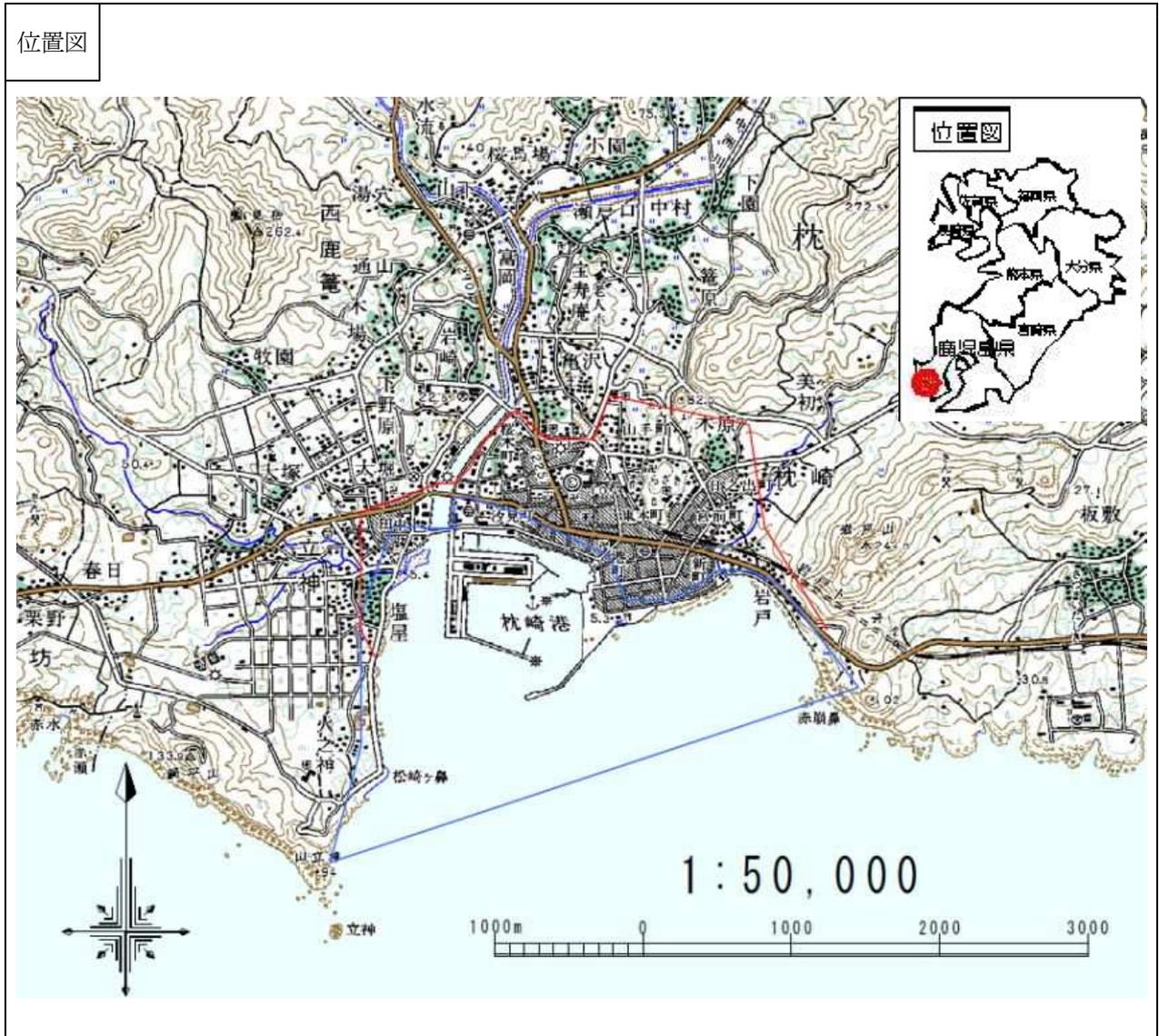
区域名	枕崎地区
-----	------

#### ロ 所在地等

都道府県名	鹿児島県	関係市町村名	枕崎市
地域指定	半島振興法、過疎地域自立促進特別措置法、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律		

整備対象漁港名	枕崎漁港 (特定第3種漁港)	整備対象漁場名	—
---------	-------------------	---------	---

ハ 位置図



ニ 当該区域の水産業に係る現況、課題及び整備方針

当該区域の水産業に係る現況、課題及び整備方針
<p>1. 水産業の競争力強化と輸出促進  <b>漁船大型化等への対応</b>  ①現況、課題</p> <p>本漁港の陸揚量の約5割を占める冷凍カツオは主に外港部の－9m岸壁で陸揚げが行われているが、近年の海外まき網船の大型化に伴い、大型船の陸揚げや準備・休憩に必要な－9m岸壁が不足がしている。</p>

現状では、海外まき網漁船や冷凍カツオの運搬船が2隻同時接岸している場合、他船の接岸ができないことから、陸揚げのため入港を希望する船が入港を断念し、他港へ陸揚げせざるを得ない状況が生じている。

これにより、枕崎地域での鰹節生産量に対して原料となる冷凍カツオを当漁港で十分な量が確保出来ないため、焼津漁港及び博多港から原料の約4割をトラックで陸送せざるを得ない状況であり、生産、コストの増大をまねいている。

また、海外まき網漁船が集中して入港した際は、陸揚げ及び出漁準備のために接岸している漁船に横付けし、数日間待機してから陸揚げを行っている。海外まき網漁業は、中西部太平洋の漁場で1年間の操業に必要な日数分の入漁料を事前に支払いカツオを漁獲し、国内主要漁港での陸揚げ作業を繰り返すという操業形態であるため、待機日数分の入漁料と漁獲機会の損失が漁業経営に大きな影響を与えており、施設不足の解消が強く求められている。

## ②整備方針

泊地浚渫に加え、-9m岸壁を新たに2バース整備することにより、既設の-9m岸壁とあわせて大型化した海外まき網船の2隻同時陸揚げ及び準備、休けいを可能とし、港内混雑の解消や入港キャンセル及び待機日数を減少させ、他港からの鰹節原料の陸送費用を削減するとともに、安定的かつ効率的な陸揚げを可能とし、漁獲機会を増大させることで漁業経営の改善を図る。原料が安定的に確保されることに伴い、市場へ鰹節の安定供給が図られる。

## 高度衛生管理体制の構築

### ①現況、課題

地域、九州のみならず全国に水産物を提供している枕崎漁港において、漁港全体で高度衛生管理を行うことは、水産物の安全・安心の確保という点で、枕崎地区はもとより全国的にも影響が大きく重要であるが、漁港全体で高度衛生管理を進めるにあたり、下記の問題点の解消が必要となっている。

#### 【外港地区】

外港地区には、海外まき網漁船から陸揚げされる冷凍カツオを取り扱う荷さばき所（外港南側）とまき網漁船から陸揚げされるサバ等の青物を取り扱う荷さばき所（外港北側）があるが、陸揚岸壁には屋根がなく、また、荷さばき所が開放されているため、日射や風雨による水産物の品質低下や、鳥糞、塵埃等の危害要因となる異物の混入による水産物の汚染のおそれがある。

また、出荷・搬出作業等において車両が進入したり動線が交差しているため、水産物、人、車両の動線錯綜により、異物の混入による水産物の汚染のおそれがある。

さらに、荷さばき所（外港北側）では、氷の供給量が不足しているため、施氷が十分にされていない水産物があり、魚体温度の上昇による水産物の品質低下のおそれがある。

#### 【内港地区】

荷さばき所（内港）では、キビナゴ、タイ、イカ、伊勢エビ等の沿岸で漁獲される水産物を取り扱っているが、屋根のない場所での陸揚・搬入や出荷・積込を行っている上、壁はあるものの、岸壁側や道路側の開口部における対策がなされていないため、開放された空間で搬入から荷さばき、積込までの作業を行っていることから、日射による魚体温度の上昇に伴う水産物の品質低下及び雨や塵埃、鳥糞等の混入・付着による水産物の汚染のおそれがある。

また、荷さばき所から発生する残滓や血水の混ざった汚水は、そのまま前面泊地に排水されているが、その海水は、未殺菌のまま活魚水槽へ使用されており、水槽から溢れた海水により、陳列された水産物に細菌類が付着するおそれがある。

## ②整備方針

#### 【外港地区】

-9m岸壁及び-6m岸壁に屋根を設置するとともに、荷さばき所（外港南側）及び荷さばき所（外港北側）全体を壁またはシャッターで囲うことにより、陸揚げから荷さばき、出荷における日射や風雨、鳥

糞、塵埃等の異物の混入を防止し、水産物の品質を確保する。合わせて、荷さばき所を拡張することにより、陸揚げや荷さばき、出荷等のエリアのゾーニングを行い、水産物、人、車両の動線錯綜を解消する。また、水産物に十分な施氷を可能にする氷の供給量を確保するため製氷施設を整備する。

**【内港地区】**

ー4.5m岸壁においては屋根を設置し、陸揚げ時における日射や風雨等による品質低下の防止を図る。また、排水設備及び海水殺菌装置を導入し、前面泊地の環境保全及び活魚水槽からの溢水による水産物の汚染を防止する。

**水産物生産コストの縮減**

①現況、課題

漁港施設用地では、海外まき網漁業や沿岸漁業（定置網や刺し網等）の網補修作業が行われているが未舗装であるため、漁具修理時に泥や砂利等が付着するなど、作業の効率が悪い状況であり漁業活動に支障を来している。

②整備方針

用地の舗装を行い、漁業就業者の作業効率性の向上を図る。

ホ 整備対象漁港及び整備対象漁場の現況及び将来見通し

(現況)

(平成26年漁港港勢)

整備対象漁 港名	属地陸揚量	102,688 ト	属地陸揚金額	15,074百万円	属人漁獲量	7,770 ト
	登録漁船隻数	155 隻	利用漁船隻数	646 隻	漁船以外利用船舶隻数	275 隻
	主な漁業種類 まき網、カツオ一本釣り		主な魚種 カツオ類、サバ類、アジ類			

(将来見通し)

(目標年：平成38年)

整備対象漁 港名	属地陸揚量	95,760 ト	属地陸揚金額	15,565百万円	
	登録漁船隻数	155 隻	利用漁船隻数	661 隻	漁船以外利用船舶隻数 275 隻

将来見通しの考え方

**【属地陸揚量】**

- ・過去10年（H16～H25）の港勢データから、魚種別（カツオ類、サバ類、アジ類、マグロ類、イワシ類、その他）に分類したところ、平成11年の開港の効果により属地陸揚量は平成12年以降大幅に増加している。
- ・漁場の位置等により陸揚量については毎年変動していることから、過去のトレンドから推計するのではなく、平成16年から平成25年までの10年間の平均値により推計。

**【属地陸揚金額】**

- ・属地陸揚金額については、市場や陸揚量、需給関係により大きく影響を受けることから、属地陸揚量と

同様に過去のトレンドではなく、魚種別に平均値を算出し、魚種別陸揚量の将来推計値に乗じて推計。

#### 【登録漁船隻数】

- ・トン数階層別に過去10年（H16～H25）の推移を踏まえ、漁協ヒアリングにより把握した増減理由等を分析・検証し、階層別に推計。
  - ・3トン未満、3から5トンの階層については、減少傾向にある。主な要因としては高齢化によるものであり、年齢構成等を踏まえ、今後も同様の傾向であることが推測されることから回帰式により推計。
  - ・5トンから10トン、10トンから20トンの階層については、新規就業者による増加が見られるが、その反面高齢化の影響も少なからずあることから、これまでの推移、新規就業者の状況、年齢構成を総合的に判断し、中期的に大きな増減は無いと推測されるため、現状維持として推計。
  - ・20トンから50トン、50トンから100トン、100トンから200トンの階層は、現状で対象漁船が無く、今後も新たな漁業種類の増加は想定されないため、0隻として推計。
  - ・200トンから500トンの階層は、まき網船やカツオ一本釣り船が主に占める。当該階層の漁船は資源動向に左右されること、一定期間同数を維持し段階的に減少しているが、比較的若い漁業者が多いことから、中期的に減船となることは想定されないため、現状維持として推計。
  - ・500トン以上の階層は、地元水産高校の鮪延縄実習に使用している漁船であり、今後も引き続き行われること、他に地元船として建造する予定は無いことから現状維持として推計。
- 以上のトン数階層別の和を求め登録漁船隻数の推計値とした。

#### 【利用漁船隻数】

- ・登録漁船隻数と同様に、トン数階層別に過去10年（H16～H25）の推移を踏まえ、漁協ヒアリングにより把握した増減理由等を分析・検証し、階層別に推計。（地元船については登録漁船と同じ。）
  - ・3トン未満、3トンから5トン、5トンから10トンの階層については、減少傾向にある。他港登録漁船の新規就業者や高齢化の状況についても当該漁港と同様に高齢化は進行していることから、今後も同様の傾向であることが推測されるため回帰式により推計。
  - ・10トンから20トンの階層では、増減を繰り返しながら横ばい傾向にある。漁場の状況により毎年増減を繰り返していることから、将来予測は困難であると判断し、10年の平均値として推計。
  - ・20トンから50トンの階層は、現状で対象漁船が無く、今後も新たな漁業種類の増加は想定されないため、0隻として推計。
  - ・50トンから100トン及び100トンから200トンの階層は、漁場の状況の影響を受け、増減を繰り返している。漁業者は比較的若いため、高齢化による廃業は中期的に想定されないことから、過去10年の平均値として推計。
  - ・200トンから500トンの階層は、長期的に減少傾向であるが、年変動があり、近年の資源動向に左右されている。大型化の傾向はあるものの、外来船の動向について把握することは困難であるため、近年の推移から大きな増減が無い過去5年の平均値として推計。
  - ・500トン以上の階層は、大型海外まき網船の760トン級である。本事業により、760トン級が問題なく入港できるようになることから、現状の5隻は利用することが確実である。また、平成28年10月から枕崎市漁業協同組合が4年契約で冷凍カツオ運搬船(2,800トン)を備船しているため、6隻として推計。
- 以上のトン数階層別の和を求め利用漁船隻数の推計値とした。

#### 【漁船以外利用船舶数】

- ・対象船舶別に、過去10年（H16～H25）の推移を踏まえ、漁協ヒアリングにより把握した増減理由等を分析・検証し、船舶別に推計。

(2) 工事に関する事項

イ 主要施設の種類の、規模及び配置等  
(漁港施設)

都道府県名	整備対象漁港名	漁港種類	所管	事業主体名	漁港管理者名
鹿児島県	枕崎漁港	特定第3種	本土	鹿児島県	鹿児島県
計画施設	計画工事種目		単位	計画数量	備考
水域施設	-9m泊地		m <sup>2</sup>	56,750	新設
係留施設	-9m岸壁		m	210	新設
	-6m岸壁 (改良)		m	267	屋根施設 昭和48年3月
	-4.5m岸壁 (改良)		m	100	屋根施設 昭和47年3月
漁港施設用地	用地 (改良)		m <sup>2</sup>	14,350	昭和48年3月

都道府県名	整備対象漁港名	漁港種類	所管	事業主体名	漁港管理者名
鹿児島県	枕崎漁港	特定第3種	本土	枕崎市漁業協同組合	鹿児島県
計画施設	計画工事種目		単位	計画数量	備考
漁獲物の処理、 保蔵及び加工施設	(外港南側)		式	1	改築
	荷さばき所 (外港北側)		式	1	
	(内港)		式	1	
	製氷施設		式	1	新設

ロ 工事の着手及び完了の予定時期

着手予定年度	平成 29 年度	完了予定年度	平成 37 年度
--------	----------	--------	----------

ハ 計画平面図

計画平面図	別添計画平面図のとおり。
-------	--------------

3 事業費に関する事項

計画事業費	8,807 (百万円)
-------	-------------

4 効果に関する事項

1. 主要な水産施策別の事業効果	<p>①水産業の競争力強化と輸出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漁船の大型化に対応した岸壁や泊地の整備により、鯉節の加工原料不足に対応するための、他地区からの陸送コストが縮減される。 また、海外まき網船が陸揚げ場所の不足により、入港後すぐに陸揚げ作業が出来ず、漁港内で待機したり、入港を断念せざるを得ない状況が改善される。</li> <li>○ 高度衛生管理を導入した荷さばき所を新たに整備することにより水産物の品質低下防止が見込まれる。</li> <li>○ 製氷施設を整備することにより、水産物に施氷する氷不足が解消され、魚体温度の上昇による品質低下防止が見込まれる。</li> <li>○ 陸揚げ作業や魚体選別作業等において、夏場の炎天下や風雨時等過酷な環境で作業している状況を解消し、水産物の品質低下を防止されるとともに、漁業従事者の労働環境が改善される。</li> <li>○ 用地の舗装を行うことにより漁具補修時の漁具への泥等の付着がなくなり、漁業活動の作業効率が向上する。</li> </ul>		
2. 地域に与える影響	<p>本事業の実施により、漁船大型化への対応や衛生管理対策等が図られることにより、海外まき網漁船等による安心・安全な水産物の安定供給が可能となり、枕崎鯉節などブランド力の強化や輸出促進が期待される。そのことにより、水産加工業を始めとした地域水産業への経済波及効果が見込まれる。 また、枕崎市等の取組と連携し、地域経済の活性化と地域振興にもつながることが期待される。</p>		
3. 費用対効果分析結果			
社会的割引率	4.0 %	投資期間	平成29年～平成37年

現在価値化の基準年度 平成 28 年	施設の耐用年数 50年、38年、18年
--------------------	---------------------

貨幣化による分析結果	
貨幣化した効果項目	1 水産物の生産性向上 ①水産物生産コストの削減効果 ②漁獲物付加価値化の効果 2 漁業就業環境の向上 ⑤漁業就業者の労働環境改善効果
総便益額B	12,062 百万円
総費用額C	7,967 百万円
費用便益比率 (B/C)	1.51
参考	純現在価値 : (B-C) 4,095 百万円
	内部収益率 : (IRR) 38.96 %
4. 事業の定量的・定性的効果 (貨幣化が困難な効果)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 背後加工団地の活性化効果 (鯉節加工)</li> <li>・ 地域団体商標に認定された枕崎鯉節の更なる普及促進効果</li> <li>・ 国際競争力の向上効果</li> <li>・ 修学旅行の受け入れ、体験型ツアー等の観光・交流人口の増加効果</li> <li>・ 魅力ある産業への転換による雇用創出効果</li> </ul>	

5 環境との調和に関する事項

環境との調和に関する事項
<p>本漁港は、海水交換が行われにくい地形的条件にあり、施工時に一度水面が濁ると長時間にわたり港内水質が悪化することが懸念される。そのため、施工に際しては、汚濁防止膜を設置するなど港内水質への影響を抑止する。また、漁港背後に加工場や住宅地があることから、振動及び騒音対策を行い周辺への影響を抑止する。</p>

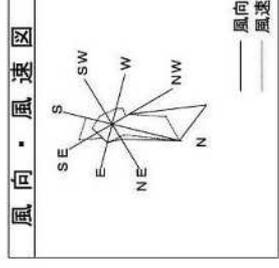
6 他の水産業に関する施設との関係に関する事項

施設名	施設規模・内容	本事業との関係	備考
荷さばき所	RC造PC版葺平屋建 2,000㎡ (高度衛生管理対策)	冷凍カツオの荷さばき所として整備され、本事業で整備する－9m岸壁の背後の既設荷さばき所であり、今回の計画で衛生管理	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合 (整備年次)

		対策として改築する。	平成11年度
第1 冷凍 冷蔵施設	凍結 150t/日 冷蔵 6,000t	水揚げされた冷凍カツオの一時保管等を行う施設。	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合 (整備年次) 平成6年度
第2 冷凍 冷蔵施設	凍結 70t/日 冷蔵 -50℃ 940t 冷蔵 -30℃ 4,660t	水揚げされた冷凍カツオの一時保管等を行う施設。	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合 (整備年次) 昭和48、52年度
冷凍冷蔵 施設	凍結 60t/日 冷蔵 -30℃ 3,500t 凍結 30t/日 冷蔵 -30℃ 3,280t	水揚げされた冷凍カツオの一時保管等を行う施設。	(事業主体) 枕崎水産加工業協同組合 (整備年次) 昭和61年度、平成3年度
前処理加 工施設	鉄骨造一部2階建 751t㎡ 80t/日	鰹節の原料として加工するための前処理 (頭を落とす) 施設。	(事業主体) 枕崎水産加工業協同組合 (整備年次) 平成3年度

残さい処 理施設	原魚処置能力 5t/時 公害防止施設40t/時	鰹節の製造過程で発生する残さいから抽出されるDHAや粉ミルクなどの添加物などの製造施設。	(事業主体) 枕崎水産加工業協同組合 (整備年次) 昭和60～62年度、平成7年度
荷さばき 所	SRC造PC版葺平屋建 6,000㎡ (高度衛生管理対策)	主にまき網船で漁獲されるサバ・アジ・イワシ等の荷さばき所であり、今回の計画により衛生管理対策として改築を行う。	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合 (整備年次) 昭和59～63年度
海水浄化 施設	浄化能力 50t/時	内港－6m岸壁背後の荷さばき所で使用される水として、取水海水を浄化する施設。	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合 (整備年次) 昭和60年度
第2 製氷 工場	製氷 50t/日 貯氷 5,000t 砕氷塔 2基	主にまき網船で利用される氷の製造施設。	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合 (整備年次) 平成元年度
荷さばき 所	鉄骨スレート造平屋建 (活魚水槽一式)	主にキビナゴ・イカ・マダイ等の沿岸物を取扱う荷さばき所であり、今回の計画によ	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合

	999.23㎡ (高度衛生管理対策)	り衛生管理対策として改築を行う。	(整備年次) 昭和51年度
海水浄化施設	浄化能力 50t/時	沿岸物を取り扱う荷さばき所で使用される水として、取水海水を浄化する施設。	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合 (整備年次) 昭和47年度
砕氷積込施設	砕氷積込能力 50t/時 貯氷能力 30t	沿岸域で操業を行う漁船で利用される氷の製造等施設。	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合 (整備年次) 平成7年度
トラックスケール	50t 2基	水揚げされた漁獲物を計量する施設。	(事業主体) 枕崎市漁業協同組合 (整備年次) 平成19年度
高度衛生管理型荷さばき所	鉄骨造 6,718㎡	平成28年度までの特定漁港漁場整備事業により整備された衛生管理型の荷さばき所であり、冷凍カツオの荷さばき所として整備された施設。	(事業主体) 鹿児島県 (整備年次) 平成27年度

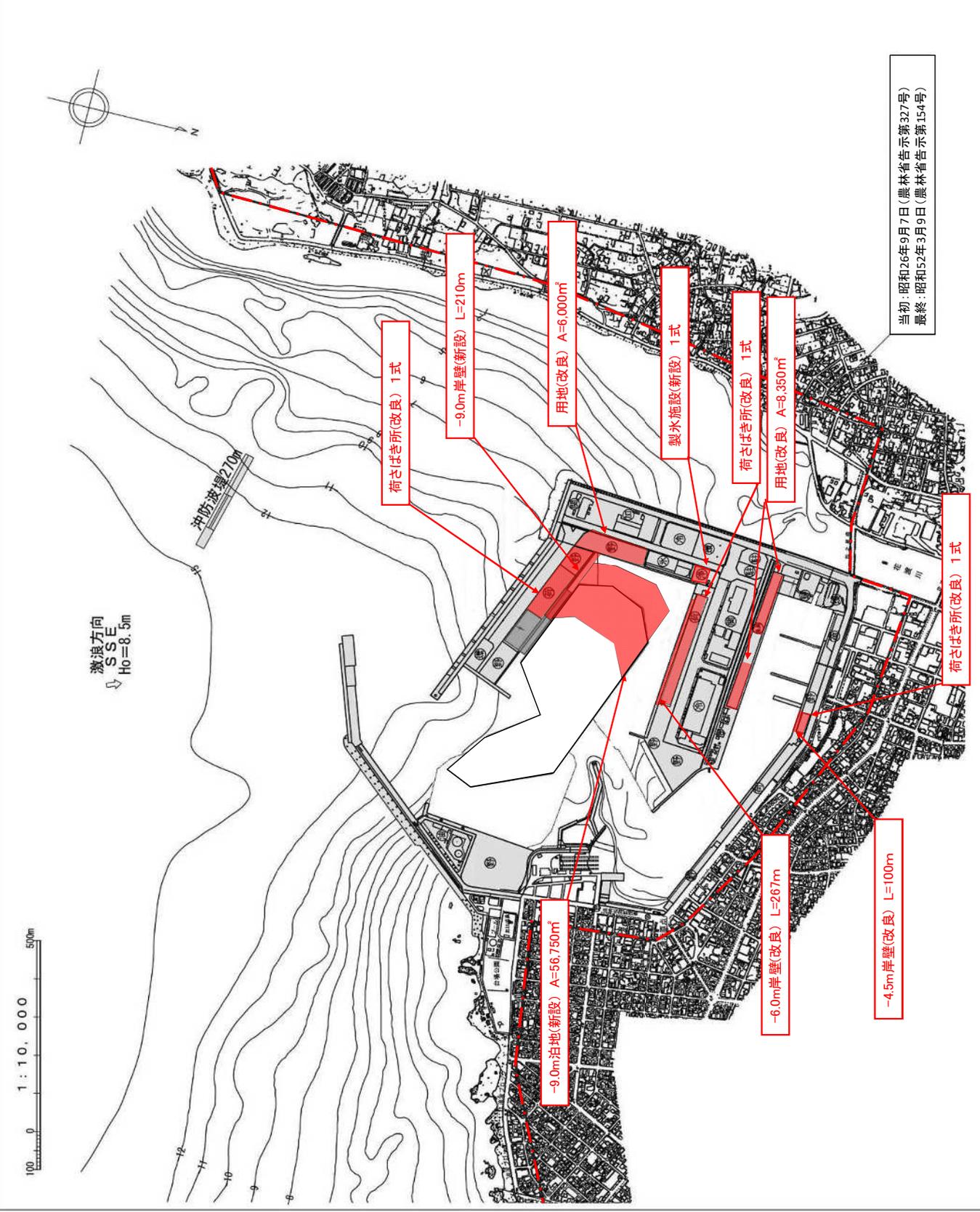


潮位図

H.H.W.L	±4.60
H.W.L	+3.00
T.P	+1.50
M.L.W.L	+0.70
L.W.L	±0.00

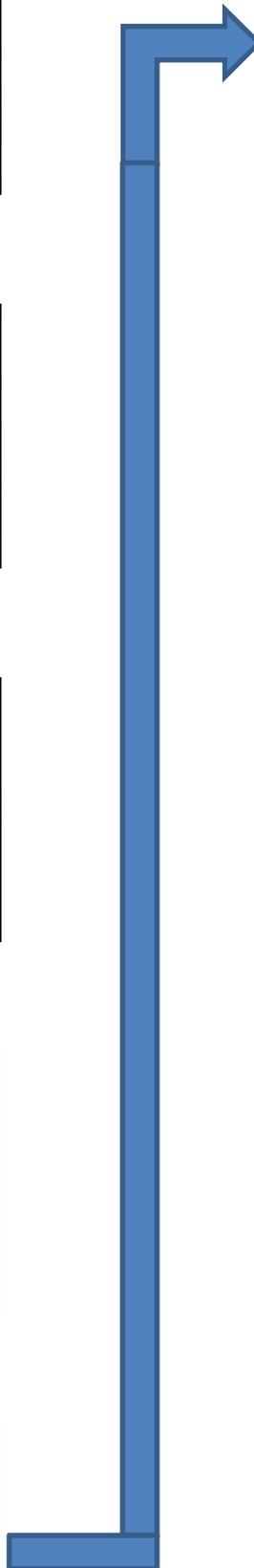
凡例

■ 当該事業基本計画



当初：昭和26年9月7日(農林省告示第327号)  
 最終：昭和52年3月9日(農林省告示第154号)

枕崎漁港 -8m岸壁における「冷凍カツオ」の荷さばき



## 枕崎漁港 -8m岸壁の利用における課題



- ・ -9m岸壁計画箇所の漁船係留状況。
- ・ 海外まき漁船が2隻係留しており、現有荷さばき所前面は陸揚げ可能であるが、施設が無い岸壁は陸揚げ待機中。



- ・ 港内全体の漁船係留状況。
- ・ 複数の海外まき網漁船による陸揚げ待ち発生状況。



- ・ 荷さばき作業における冷凍かつおの落下状況。
- ・ 小石等の異物混入が発生。
- ・ 品質・衛生管理上問題がある。



- ・ 搬出までの仮置き状況。
- ・ 屋根の無い場所で、日射等による品質低下や砂埃等の異物混入の恐れがある。
- ・ トラック付近で置かれることで、排ガスの影響も受けている。



【陸揚げ状況】

・クレーンにより陸揚げされるが、岸壁から荷さばき所までの間が長く屋根がないため、日射による温度上昇や鳥糞等の危害混入のおそれがある。



【陸揚げ状況】

・クレーンにより陸揚げされるが、岸壁から荷さばき所までの間が長く屋根がないため、日射による温度上昇や鳥糞等の危害混入のおそれがある。



【積み替え作業】

・荷さばき所の幅が狭く、背後の露天での積み替え作業のため、日射による温度上昇や鳥糞等の危害混入のおそれがある。



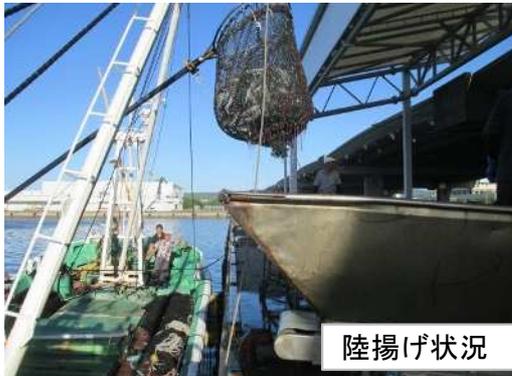
【出荷状況】

・露天でのトラックへの積み込み作業のため、鳥糞等の危害混入のおそれがある。

写真等



【鳥対策】  
・防鳥ネット等による鳥対策を行っているが、対策が不十分である。





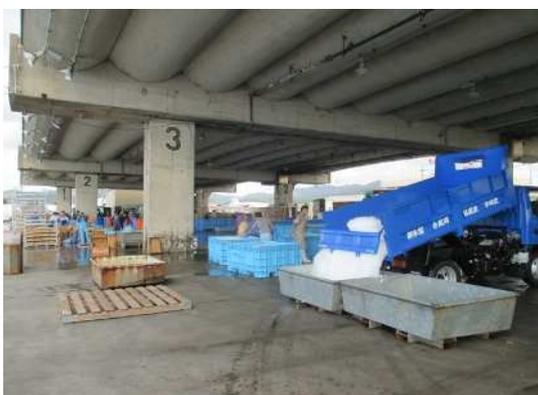
**【陸揚げ状況】**

・屋根のない露天での陸揚げのため、日射による温度上昇や鳥糞等の危害混入のおそれがある。



**【選別作業】**

・露天で選別作業を行っているため、日射による温度上昇や鳥糞等の危害混入のおそれがある。  
・露天で選別作業を行っているため、作業従事者の労働環境が悪い。



**【氷の搬入状況】**

・氷不足のため、購入した氷を荷さばき所へ運搬車が進入している。

陸揚げ状況



陳列状況



陸揚げ状況



入札状況



水産物搬入状況



出荷状況



計量作業状況





**【海水取水施設】**

・活魚に利用する海水については、岸壁前面から取水しているが、未殺菌であるため品質低下のおそれがある。



**【岸壁状況】**

・岸壁に排水溝が設置されていないため、荷さばき所内の洗浄水等が直接流れ、前面海域の水質悪化のおそれがある。



**【車の洗浄状況】**

・荷さばき所内で車の洗浄を行っているため、前面海域の水質が悪化するおそれがある。



**【荷さばき所内の運搬状況】**

・荷さばき所内については、ガソリンフォークリフトで積込・運搬作業を行っているため、漁獲物の品質低下のおそれがある。